

経済発展が穀物需要に与える影響

神戸大学農学部・玉井大地

神戸大学大学院農学研究科・草苅 仁

近年、世界の市場では食料価格が高騰している。シカゴ商品取引所の国際価格では、2008年に入って、トウモロコシ7.5ドル、小麦12.8ドル、大豆16.6ドル（すべて1ブッシェル当たり）と、いずれも過去最高値を記録した。こうした食料価格高騰の要因の1つとして考えられているのが、BRICsなどの新興国の経済発展に伴った食生活の多様化・高度化を背景とした飼料用穀物需要の増加である。特に、アメリカ農務省『World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)』によると、トウモロコシは2006/2007年度において世界の消費量の約66%が飼料用として消費されており、主要な飼料穀物であるといえる。一般的に、経済発展によって国民の所得が増大すると、食生活の高度化・多様化が起こり、畜産物の需要が増加する。牛枝肉を1kg生産するためにトウモロコシが8~11kg必要であるように、畜産物の生産には多くの飼料穀物を必要とするため、畜産物需要の増加によってトウモロコシの飼料用需要は加速度的に増加すると考えられる。

次に、アメリカ農務省『World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)』による世界のトウモロコシ需給の2008/2009年度予測によると、世界全体のトウモロコシ消費量は前年度に比べて約2.7%増加し、消費量が生産量を上回ることから更なる需給のひっ迫が見込まれている。飼料用需要は前年度に比べてやや減少を見込んでいるが、これはアメリカでの飼料用需要減少の影響によるものであり、ブラジルや中国等での飼料用需要は増加が予測されている。したがって、新興国の飼料用需要の増加の動向を掴むことの重要性は大きいと考えられる。

そこで本稿では、経済発展による畜産物需要の増加に着目し、畜産物の需要関数と供給関数からトウモロコシの派生需要関数を計測する。分析対象国は経済発展の著しいBRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）の4カ国とする。経済発展に伴う畜産物需給の変化がトウモロコシ需要へ与える影響を分析することを通じて、各国のトウモロコシ需要増加の現在までの動向を確認するとともに、トウモロコシ需要の今後の動向を考察することが本稿の課題である。